

白神社：岩礁

広島中央のビジネス街のど真ん中にオフィスやホテルが立ち並ぶ中、白神社は目を引きます。しかし、その低さや白く輝く装飾だけが目に飛び込んでくるわけではありません。これほど都市のど真ん中に位置する神社にしては珍しく、白神社の 2 つの社殿は地表にむき出しになっているゴツゴツした大きな岩の上に建てられているのです。こうした基礎の上に建てられている由来は、この神社と広島市の歴史にあります。

白神社が最初に信仰の地となったころ、ここは広島湾に多く浮かぶ島の 1 つの沿岸にありました。基礎になっていた岩礁は海底深くまで伸び、通過する船舶には大変危険でした。この神社は、ランプの代わりに目立つ白い紙を使って船舶に危険を知らせる、今で言う灯台のような役割を担っていたのです。

白神社が正式に建立されたのは、地元の大名である毛利輝元（1553-1625）が広島城の城主になった 1594 年のことでした。毛利は事実上何もなかったところから新たな都市を築いたようなもので、湾を埋め立てて領地を広げました。毛利の埋め立て事業によって白神社は本土につながり、岩礁が船舶に危険を及ぼすこともなくなりました。時間をかけて、広島市は白神社よりさらに海側まで広がり、白神社は都会に囲まれるようになりました。